



問 農業振興及び町の特産品の進捗状況は

答 土地集積に中間管理機構を利用して伸ばす

問 農業振興において土地の集積状況は。

産業課長 農地中間管理機構事業の経営転換協力金や地域集積協力金などの機構集積協力金の交付を活用し進めている。26年度1.5ha、27年度0.8ha、28年度11.9haと11月末で集積率28.18%。管理機構において、「モデル地区の設定を」とあり、山王地区に決定し進めた結果、約8ha集積が図れた。

町長 今後も国の制度を活用しながら、土地集積を農家所得の向上のため、各地域の農家の理解のもと進めたい。

問 特産品の開発進捗状況は。

産業課長 八つ頭コロケは、道の駅ごかで1個150円と比較的高めの価格設定だが、平日80個～90個、土日は100個程度売上げる人気商品となっている。

町長 八つ頭コロケは、道の駅でPRしながら販売している。生産者の確保、品質の統一をし、今後も研究して年間を通して販売できるよう努めていく。道の駅へ出荷する後継者の育成も進めたい。

土地の集積面積

年度	集積面積(ha)	集積率(%)
26	1.5	26.54
27	0.8	27.01
28	11.9	28.18

※28年度は、11月末現在

問 高齢化が進む町の介護の現状、今後の対策は

答 在宅介護が増加傾向にあり、地域支え合いの仕組みを確立

問 町の65歳以上の割合が総人口の30%と多いが、介護を取り巻く現状は。

健康福祉課長 10月1日現在、町内にある特別養護老人ホームで、90名定員に対し86名入所、待機者38名、うち町内待機者12名。この施設は、デイサービスも併設、定員30名に対し27名が利用。また、認知症高齢者が入居するグループホームも定員9名で満室である。社会福祉協議会のデイサービス事業所は定員39名で、こちらも空きのない状態である。今年2月に開所したサービス付き高齢者向け住宅は、10名が入所、定員20名のデイサービスは13名が利用している。現在、施設型給付費は横ばい。在宅サービスが増加傾向にあり、今回の補正予算で在宅給付費を増額した。

くり、みんなで支え助け合う。総合事業を進め、全ての高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくりを構築する。

労働など労働環境が厳しい状況下でありサービス低下の苦情もある。定期的に指導し、事故防止、処遇改善に努めたい。

問 介護従業者の勤務状況は。

健康福祉課長 人員不足、超過



シルバーリハビリ体操の様子

町長 地域支え合い協議体をつ